ハレとケ

長久手市文化の家情報誌

2018/04 ▶ 2018/09

Vol. 06

長久手市文化の家
NAGAKUTE Cultural Center

子どもたちへ贈る クラシック音楽イベント

迫力満点のオーケストラがキミを待っている！ 名曲「だったん人の踊り」をテーマに繰り広げられる 音楽バザールへ出かけよう！

2016年夏に、長久手に音楽旋風を巻き起こした『おんぱく』が帰ってくる！ 今回もおんぱくスペシャルオーケストラを結成し、子どもたちにクラシック音楽の魅力を伝えます。

おんぱくは、2004年からほぼ隔年で開催してきた音楽イベントで、今回で8回目を迎えます。毎回、民族音楽やジャズなど、様々なジャンルを取り上げて開催してきました。いちばんの主役となるお客様は、通常のクラシックコンサートでは入場することができない就学前の子どもたち。普段は聴けないオーケストラの生演奏、そして音楽の楽しさを全身で体感できるアトラクションが満載のテーマパークです。この日のために結成されるおんぱくスペシャルオーケストラを構成するのは、東海地方を中心に、全国、そして世界から集まった優秀なアーティストたち。大迫力の本格的なオーケストラサウンドをお届けします！

前回は「威風堂々」をメインテーマ曲として、おんぱく王国を創り上げました。なんと1000人のお客様にご来場いただき、大盛況となりました。今回のテーマ曲は、「だったん人の踊り」。CMやアニメなど、様々な場面で使われているので曲名でピンと来ない方も、実は聴いたことがあるかもしれません。そのエキゾチックな旋律から、皆が集う街の中心地、バザールをイメージして開催します。そして、おんぱくバザール開催までの2カ月間、まちなかコンサートも実施します。6月9日(土)のオープニングを皮切りに、まちじゅうに音楽家が登場！ おんぱくムードを盛り上げます。さあ、音楽バザールへ旅に出よう！

このイラストを描いたのは、おんぱくディレクター・田邊武士さんです。音楽家であり、二児の父である田邊さん。もともと自分で開催していた子ども向け演奏会のためにイラストを描き始めたそうです。前回もメインイメージである王様のイラストをはじめ、まちなかコンサートで配布したステッカーのイラストも描きました。その優しいタッチのイラストは子どもたちに大人気！ 今年もたくさんのステッカーが登場する予定です。お楽しみに！

おんぱく2018
～ようこそ、夏の音楽バザールへ

8月5日(日) 10:45 ～ 16:15
長久手市文化の家全館
中学生以上1,500円　0歳～小学生500円
※0歳からチケットが必要です。
発売日　フレンズ会員4月7日(土)　一般4月14日(土)

おんぱく、制作の裏側に迫る！

おんぱくは、実行委員会形式で制作しています。実行委員会を構成するのは、地元アーティスト、文化の家創造スタッフ、研究者、そして市民ボランティアの計14名。皆が一丸となって、子どもたちの笑顔のために日々がんばっています。

長久手市は、人口の約1％が「芸術家」として住民登録を行う"アーティストのまち"。この数字は、全国的に見てもかなり高いものです。なぜこんなにアーティストが住んでいるのかというと、市内に愛知県立芸術大学があることが大きな要因となっています。卒業後、そのまま住み続ける人が多いのです。また、学生時代を過ごした場所として長久手にゆかりのあるアーティストが県内外にたくさんいて、おんぱくをはじめ文化の家の多くの事業に参加しています。

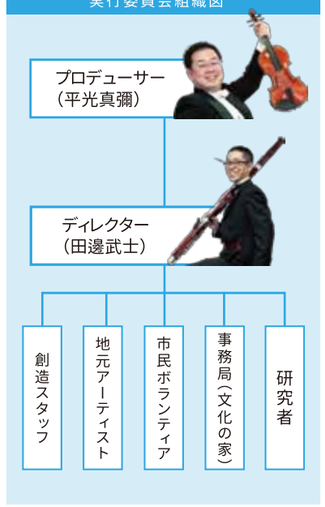
市民枠では、長久手おやこ劇場のメンバーが参加中です。おやこ劇場とは、親子で舞台芸術を鑑賞し、子どもたちの豊かな感性を育てることを目的とした団体です。親の視点、子どもの視点、そして地域住民の視点から、ニーズやアイデアを提言するという大切な役割を担っています。

おんぱくを支えるのは、実行委員だけではありません。メンバーを総動員してもメインイベント当日の1000人(2016年来場者数)のお客様を対応することは不可能です。そこで、おんぱくでは学生を中心としたボランティアスタッフに協力いただいています。

長久手市のもう一つの特徴として、学園都市であることがあげられます。愛知県立芸術大学のほかに3つの大学があり、近郊の大学も合わせると、なんと11もの大学があります。そのため、各大学のボランティアサークルへ協力依頼をすることで、前回は総勢60名を超えるボランティアの皆さんが集まってくれました。

このようにおんぱくは、長久手の特徴をフル活用した長久手らしさ全開のイベントです。この夏は、メイド・イン・長久手のおんぱくで特別な夏の思い出をつくりましょう！

全員ではありませんが、会議の様子です



おんぱくの楽しみ方

ステッカー収集

オープニングコンサートを皮切りに、まちなかにとびきりゆかいな音楽家たちが登場します。

参加1回ごとに、彼らから1枚ステッカーがもらえます。音楽家と友だちになれる大チャンス！ 4枚集めてメインイベントに遊びに行くと、イイコトがあるかも…♪

※日程及び開催時間は下記をご確認ください。

ボランティア

おんぱくを支え、盛り上げてくれるボランティアを募集します。アーティストと仲良くなれて、裏側も覗けて、お客さんよりも満足度高いかも!? 音楽が好きな人、子どもが好きな人、大歓迎！

募集期間：4月10日(火)～　随時募集
※詳細は文化の家ホームページをご覧ください。

おんぱく合唱隊

音楽家と一緒に舞台に立てるチャンス！ プロのオペラ歌手の指導のもと、オープニングコンサートとメインイベントのステージのために「だったん人の踊り」「魔笛」などを練習します。一生に一度の思い出になること間違いなし！ 親子での参加、大歓迎です！

募集期間：4月10日(火)～
※定員に達し次第終了。
※詳細は文化の家ホームページをご覧ください。

Schedule

6/9(土)	おんぱくオープニングコンサート 10:35 桧ケ根公園 → 11:00文化の家アトリウム
6/10(日) 11:00~	アトリエぎゃらり一欅舎(けやきしゃ)
6/13(水) 11:00~/13:30~	青少年児童センター/下山児童館
6/16(土) 11:00~/14:00~	児童総合センター(モリコロパーク内)
6/20(水) 11:00~/13:30~	上郷児童館/市が洞児童館
6/24(日) 11:00~	福祉の家　交流エリア(1階)
6/27(水) 11:00~/13:30~	南児童館/上郷児童館
7/1(日) 11:00~/15:00~	イオンモール長久手/アピタ長久手
7/6(金) 14:30~	子育て支援センター
7/8(日) 11:00~/14:00~	中央図書館　AVルーム(2階)
7/12(木) 11:00~/13:30~	西児童館/南児童館
7/18(水) 11:00~/13:30~	下山児童館/青少年児童センター
7/24(火) 11:00~	長久手市文化の家アトリウム
7/27(金) 11:00~/13:30~	市が洞児童館/西児童館
8/5(日)	おんぱくバザール 長久手市文化の家全館

兄弟ピアノデュオ「レ・フレール」が０歳からのコンサートを♪

今、若い世代に絶大な人気を誇り、
全国ツアーでも完売続出のレ・フレールが長久手市に登場！

1台のピアノを4手連弾で弾く、斬新かつ繊細なプレイスタイルの兄弟ピアノデュオ「レ・フレール」が、「バギ・ウギ・ライブ」と題して0歳から楽しめるピアノコンサートをお届けします。「バギー世代の子どもたちとご家族に、本物の音楽を気軽に楽しんでいただきたい」という想いから始まったこのコンサート。子どもたちに「本物のコンサート」をお届けすることで、子どもたちの感情豊かな人生の基盤作りに役立つことを目指します。

ゴールデンウィークの子どもの日に家族で楽しめるコンサートということで、客席前方にはキッズスペースを設け、スクリーンを使って映像を映し視覚的にも楽しめるなど、小さな子どもたちに楽しんでもらえるような工夫が満載。小さなお子様連れの音楽鑑賞は周囲の目が気になるなどご家族も気を遣いますが、このコンサートでは赤ちゃんが泣いても大丈夫！手をたいたり、リズムにのったり、目と耳と体で楽しんでください。

当日は、レ・フレールのオリジナルだけでなく、文化の家創造スタッフとの共演による長久手市の応援ソング『クーテシガーナ』の演奏も。レ・フレールの長久手オリジナルコンサート、是非お見逃しなく!!

2018ながくてキッズプログラム①　家族で音楽を楽しもう！ レ・フレール　バギ・ウギ・ライブ2018

5月3日(木・祝)　14:00開演
会場：森のホール
料金：フレンズ会員　おとな3,000円(前売のみ)
一　　般　おとな3,500円　こども(4歳～中学生)1,500円
※3歳以下1名まで保護者の膝上無料。4歳以上また座席が必要な場合チケット必要。

チケット発売中

海外作品も地元劇作家の作品もどっちも楽しみ！

夏の風物詩となりつつある、ジョイントフェスティバル。
お子さんと特別な時間を過ごしてみませんか？

次代を担う子どもたちのために優れた舞台芸術を提供しようと、２０１４年から始まった「ジョイントフェスティバル愛知」。愛知県内の劇場や芸術団体が連携して企画や運営を行っています。

今年の海外作品は、スウェーデンの乳幼児向け舞台「ぐっすり おやすみ」。パジャマ姿の男女が寝る前にドタバタ劇を繰り広げます。せりふはほとんどなく、大きくコミカルな動きが中心なので小さな子どもたちも思い切り楽しめる作品となっています。

もう一つの「風を見たかい?」は、宮沢賢治の「風の又三郎」を原作に、文化の家ではもはやおなじみとなった長久手市在住の劇作家・刈馬カオスさんが書き下ろすお芝居です。刈馬さんが児童劇を手がけるのは今回が初めてということですが、初めての市民劇「長久手人物語」も大好評でした。きっと面白いものになると思います。続報にご期待ください！

「ぐっすり おやすみ」舞台より

刈馬カオス

2018ジョイントフェスティバル愛知
「ぐっすり おやすみ」

8月10日(金)11:00 / 14:00　森のホール舞台上
料金：未定　※全席自由　※0歳から入場可(要チケット)
チケット発売日：フレンズ会員6月2日(土)　一般6月9日(土)

2018ジョイントフェスティバル愛知
「風を見たかい?」

9月17日(月・祝)時間未定　風のホール
料金：未定　※全席自由
チケット発売日：フレンズ会員6月2日(土)　一般6月9日(土)

文化

20年の歩み

「今年で二十歳になりました。」人に例えれば晴れて成人を迎えたことになります。ハレの場(非日常空間)でありケの場(日常空間)でもある文化の家は、長久手初の総合文化施設として１９９８年に開館しました。創造できる公立文化施設として、専門スタッフを雇い、会館運営の基本計画を作り、年間１００以上のプログラムと誰もがくつろげる空間を提供し、年間５０万人が訪れる施設へと成長しました。２００７年には、市民が主体となり劇場運営をおこなう地域に開かれた劇場としてJAFRAアワード(現・地域創造大賞)を東海地区で初受賞しました。

主な事業例として、「おんぱく」は、地域の親子が音楽に身近に触れる機会として、まちなか、また全館を使ったコンサートを14年前から続けてきました。演劇では東海地区の劇作家と共同で作り上げた「劇王」が、北海道から沖縄までの演劇人を刺激し全国区で繰り広げられるようになりました。

高齢者の市民宅に出向き、これまで歩んできた道程をダンスで表現した「密の歳月」は、高齢者ダンスシアターの先駆けにもなりました。また、市内３０カ所をフィールドに作品展示を行う「ながくてアートフェスティバル」は、芸術家が多く住む長久手市ならではの企画です。

市民の文化高揚を市劇団、市合唱団が後押しし、ボランティア組織のフレンズもフロントスタッフや自主企画で市民交流を促してきました。他にも様々な出会いが長久手文化の原動力であり活力になりました。

施設全体をリニューアルした昨年度は、市の文化振興を形成する長久手市文化芸術マスタープランを多くの市民と共同で策定しました。２０年間、市民・来館者にここまで育ててもらったことに感謝すると共に、これからも笑顔が満ちあふれる劇場であり続け、文化の家が多くのご縁を結ぶ「ハレとケ」の場になりますようスタッフ一同さらに精進して参ります。

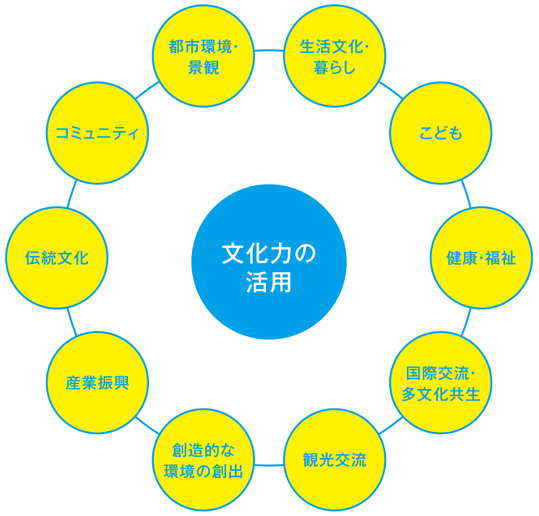
文化の家事務局長／舞台照明家　籾山勝人

「長久手市文化芸術マスタープラン」完成

長久手市文化芸術マスタープランは今後10年の長久手市の文化芸術振興に関わる指針です。今回で3度目の改訂となりましたが、これまでの改訂と大きく異なる点があります。それは“市民と行政のパートナーシップ”により作られたことです。

文カフェと題した市民ワークショップ、住民アンケート、そして市民検討会議によるアイデアと、様々な方の想いをのせています。

今年、文化の家は開館20周年を迎えます。長久手市の文化芸術振興を支え、先導する中核として役割を担ってきました。これまでを振り返るなかで出てきた課題と着実に歩んだ成果、また、皆さんのアイデアを基に、変化が激しい現代社会を踏まえ、この先10年を見据えた施策を盛り込みました。



劇作家たちの遊び心と本気度が増した初の国際コンペティション

文化の家２０１７年度最大のイベントは「劇王」だったと言って間違いないでしょう。４年ぶりの開催にあたって韓国、香港、シンガポールからも劇作家を招き、異例の国際大会が実現しました。

初日は予選Ａプログラムのみながら波乱の幕開けに!? 決勝進出した東北の遠藤雄史「アツモリ」と、２位になった関西の福谷圭祐「コミュニケットボール」の得票差は実に１点！ 観客票が命運を分けた形となります。喜劇と見せかけ震災で死別した夫婦の苦悩を描く「アツモリ」、架空の(?)スポーツを通じてコミュニケーションの問題を見つめる「コミュニケットボール」。対照的な作品の接戦は、つづく大会を盛り上げました。

２日目は予選Ｂ・Ｃプログラム。Ｂプログラムでは中国地区の亀尾佳宏「前兆とか」が不気味な心理劇で観客を驚かせます。Ｃプログラムでは北海道の上田龍成「言いにくいコトは、」が早口言葉を取り入れて爆笑を誘い、各プロの勝者が決定。ただ、香港のマン・チャン「高野山で僕のアイドルに出会う」も強烈な印象を残したことから、怪演を見せたアンソン・ラムに彦いち賞(※)が授与されました。

そして最終日。勝ち上がった3作品を第９代劇王の平塚直隆が迎え撃ちます。平塚は盟友・中尾達也と「救急車を呼びました」を上演。何気ない言葉の積み重ねが異常を引き起こす、可笑しくて気持ち悪い不条理劇は、会場の空気をジワジワつかみ、圧倒的な観客票で平塚が劇王の座を防衛しました。

なお、合間には座談会など交流企画もあり、全体講評もきっちりと。勝負だけに終始しない収穫があったことも記しておきます。

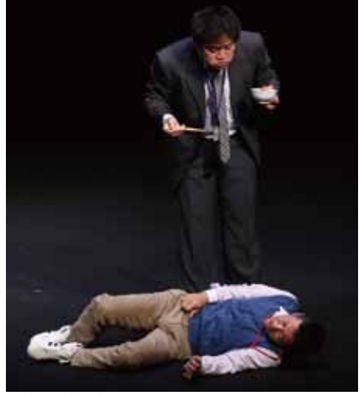
（広報アドバイザー　小島祐未子）

※「彦いち賞」は東海支部長経験者の佃典彦、はせひろいちから個人的に贈られる俳優賞。

予選Ａプログラム
韓国代表
イム・ジョンヒョク「劇団トンスン舞台」「視線」
東北代表
遠藤雄史「トラブルカフェシアター」「アツモリ」
関西代表
福谷圭祐「匿名劇場」「コミュニケットボール」
関東代表
中山朋文「theater 045 syndicate」「サマータイム」

予選Ｂプログラム
シンガポール代表
ゼルダ・タティアナ・シ「いつも側にいるよ」
九州代表
荒木宏志「劇団ヒロシ軍」「まみれまみれ」
中国地区代表
亀尾佳宏「亀」「前兆とか」
東海代表
渡山博崇「星の女子さん」「怪盗パン」

予選Ｃプログラム
香港代表
マン・チャン「陳志輝」「高野山で僕のアイドルに出会う」
甲信越代表
石川直幸「劇団☆DANTE」「記憶より記録」
四国代表
行正忠義「シャカ力」「オオカミ少年」
北海道代表
上田龍成「言いにくいコトは、」


平塚直隆「救急車を呼びました」

遠藤雄史「アツモリ」

亀尾佳宏「前兆とか」

上田龍成「言いにくいコトは、」

出演者、ゲスト審査員、スタッフで記念撮影

– イベントレポート –

長久手演劇王国Vol.18
日本劇作家協会東海支部プロデュース
Jr.ライト級チャンピオンタイトルマッチ

劇王 XI ～アジア大会～

9月15日～17日、風のホールにて

日本劇作家協会東海支部と文化の家が共に立ち上げ、“劇王”の座を争う短編戯曲のコンペティションがアジア大会として復活。「上演20分以内・出演者3人まで」などの条件、審査員に加えて観客も投票できるルールのもと、精鋭たちが競演の火花を散らしました。

– イベントレポート –

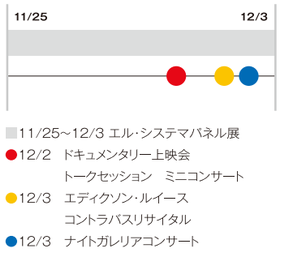
エル・システマの奇跡
～生きる力を育む音楽教室～

エディクソン・ルイース
コントラバスリサイタル

12月3日、森のホールにて

世界的コントラバス奏者エディクソン・ルイースによるリサイタルをはじめ、ベネズエラで生まれた音楽システム「エル・システマ」を紹介する事業を展開。館内ではパネル展、ドキュメンタリーの上映会にトークセッションやミニコンサートも行われました。

事業全体図



大きな愛から生まれた確かな希望

エル・システマとは「ベネズエラの音楽の奇跡」として知られる音楽教育システム。２歳から無償で楽器が貸し出され、国内に約４４０ある教室で70万人以上がプログラムに参加しているといいます。物質的には決して豊かとは言えない環境の中、多くの子どもたちが楽器と音楽に夢中になり、心の豊かさを手にしています。

今日では世界の多くの国がエル・システマの理念と成果に触発され、独自の取り組みを始めています。

ベネズエラ出身のコントラバス奏者エディクソン・ルイースも、幼少期からエル・システマに参加し、なんと最年少で世界的なオーケストラであるベルリン・フィルハーモニーのオーディションに合格しました。

少年のような笑顔で、身長ほどの大きな楽器を抱いて舞台に現れたルイース。演奏会の始まりはバロック時代の音楽を暖かく品のある音色で表現。続く現代の繊細な作品では、鋭い弓の筆致で会場の響きが刻一刻と変わる、異世界のような空間を作り出しました。そして前半のメインであるバッハの無伴奏チェロ組曲第１番。彼の作品に対する「愛情」や「尊敬」が演奏を通じて表現されていたように感じます。

後半のステージでは彼の原点であるラテンの作品を中心に。はつらつとした音楽でありながらまるで会話するような自然さで、「音楽が彼の中にそっくり入っている」そんな印象を感じさせられました。ピアニスト菊地洋子さんとの息の合った情熱的なアンサンブルは何より魅力的で、大きな楽器らしからぬ軽快で鮮明なリズムを描きだし、重厚であるはずのコントラバスを聴いているという感覚はどこかにいってしまったのでした。

コントラバスという楽器はオーケストラの中で土台として全体を支える大切な役割を果たしますが、ソロのリサイタルとしての舞台を目にすることは少ないかもしれません。この演奏会により僕の「コントラバス観」は大きく変わることとなりました…。

コンサート後は、文化の家ガレリアで長久手の子どもたちと弦楽合奏での共演コンサート。「一流アーティストが子どもたちと演奏の機会を持つ」という事はなかなか実現しない事ですが、エル・システマの中で育ったルイースにとっては子どもたちの為に何かしたい、という思いは自然な事なのでしょう、打診も快く引き受けて下さったそうです。エル・システマの価値はこのような「感謝の連続」にもあるのではないでしょうか。

「エル・システマ」は大人たちの大きな愛情、そこで育まれたルイースのような音楽家は希望そのものなのだと、子どもたちとの合奏の風景を見ながら、つい涙が出てしまいました。

（創造スタッフ　石川 貴憲）

10月頃、ちょうど来日の予定があり、合間を縫って長久手の子どもたちに会いに来てくれました。突然の合奏に子どもたちも感激!

練習後には、子どもたちからルイースへ質問をするなど交流の時間がありました。

ホワイト・ハンド・コーラスの映像を上映後、エル・システマジャパン代表理事・菊川氏を迎えてトークセッションを開催。さらにベネズエラ音楽の伝統楽器クアトロによるミニコンサートも。最後にはルイースも壇上に上がってくれました。

ナイトガレリアコンサートにて子どもたちと共演後、子どもたちからルイースへ、メッセージを書いた色紙がプレゼントされました。

///INFORMATION///

であーと授業公開

2月6日、長久手市立東小学校でのアウトリーチ「であーと」が行われました。これは文化の家で10年以上続くアウトリーチプログラムで、芸術のまち長久手で素敵な「アート」に「出会う」＝「であーと」です。

通常、アウトリーチ事業は児童と先生しか見ることのできないもの。しかし保護者の皆さまにもご覧いただき、意義を理解していただくため、学校と相談し、自由に授業を参観できる授業公開日に合わせていただきました。

普段は、文化の家の創造スタッフや愛知県立芸術大学の学生グループが出演していますが、この日は特別に東京からアウトリーチのために結成されたトリオ・ノートの3人をお呼びしました。綿密に練られたプログラムは「であーと」に新しい風を吹かせてくれました。

前日には、県芸の木管五重奏のグループとお互いのプログラムを見合い、意見を交わしました。学生たちにとって、かなり刺激になったのではないでしょうか。

アーティスト同士の出会い、子どもたちと本物の音楽との出会い、たくさんの出会いが生まれた「であーと」でした。

チェロのエンドピンからの振動に触れる子どもたち

エデュケーション・プログラム
小学校であーと

2018年2月～3月
長久手市内全6校にて開催

///GUIDANCE///

知っていますか？文化の家の使い方
［第6回 光のホール］

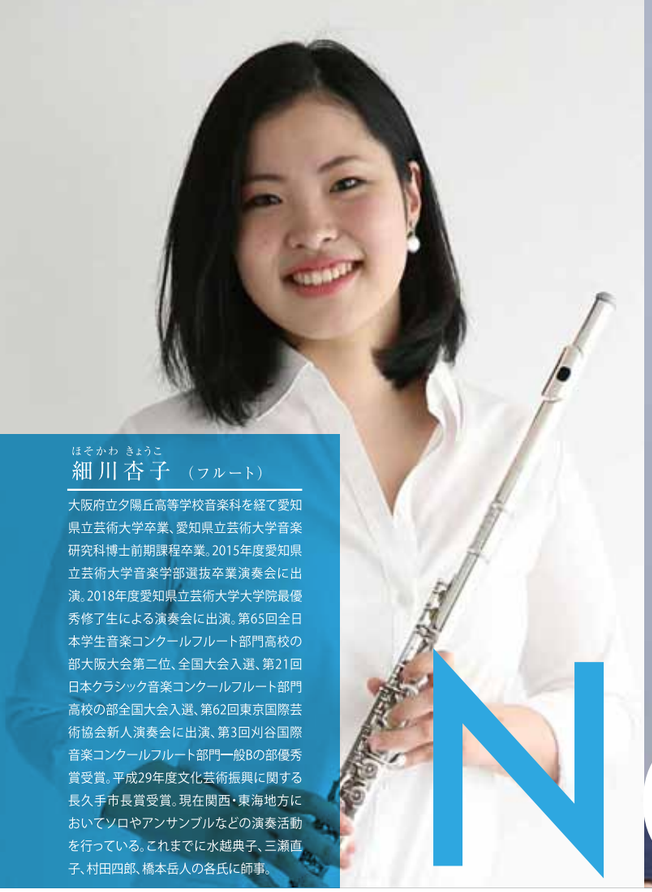
これまで子ども会での映画鑑賞会や、ちょっとした講演会・シンポジウムの会場として、その役割を果たしてきた光のホール。改修工事を機に、一気に利用の幅が広がりました。奥行き1.7m→3.7mに広くなったステージ。映像鑑賞会や講演会だけでなく、例えば森のホールや風のホールでは大きすぎる、小さな演劇公演や演奏会にもご利用可能です。

さらに「練習利用」という新しい料金システムを設けました。お客さんを入れる前に練習しておきたい、ステージで演奏練習してみたい、そんなときにぴったりのスペースです。音響設備やプロジェクターを使用しない練習での利用は、通常の30%の料金で利用できます。最大82名を収容できる点でも、まだまだ可能性が広がりそうです。

エル・システマドキュメンタリー上映会（終了）▶

2017年12月2日(土)
長久手市文化の家 光のホールにて開催
(本誌6ページにてレポート掲載中)

12/2、エル・システマドキュメンタリー上映会での演奏風景



創造スタッフ紹介 New

細川杏子（ほそかわ きょうこ）（フルート）

大阪府立夕陽丘高等学校音楽科を経て愛知県立芸術大学卒業、愛知県立芸術大学音楽研究科博士前期課程卒業。2015年度愛知県立芸術大学音楽学部選抜卒業演奏会に出演。2018年度愛知県立芸術大学大学院最優秀修了生による演奏会に出演。第65回全日本学生音楽コンクールフルート部門高校の部大阪大会第二位、全国大会入選、第21回日本クラシック音楽コンクールフルート部門高校の部全国大会入選、第62回東京国際芸術協会新人演奏会に出演、第3回刈谷国際音楽コンクールフルート部門一般Bの部優秀賞受賞。平成29年度文化芸術振興に関する長久手市長賞受賞。現在関西・東海地方においてソロやアンサンブルなどの演奏活動を行っている。これまでに水越典子、三瀬直子、村田四郎、橋本岳人の各氏に師事。

演奏やパフォーマンスだけでなく日常から「面白い」ことが大好きなので、私なりの「面白い」をたくさんアイデアとして発信出来たらと意気込んでいます。また、創造スタッフを通しての新しい人々、音楽、芸術との出会いは今からとっても楽しみです。その一つ一つを大切に、そして出会うすべての人、ものと感動を共有できるような素敵なアーティストでありたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします！

了徳寺佳祐（りょうとくじ けいすけ）（作曲）

1994年鹿児島県生まれ。作曲を山本裕之、北川文雄、石田匡志、久保禎に、エレクトーンを鳥居達子の各氏に師事。南日本音楽コンクール作曲部門において優秀賞（1位）を受賞（2011,2012年）、大阪教育大学芸術専攻音楽コース卒業記念演奏会に出演。打楽器を用いた音楽を得意とし、室内楽や吹奏楽、ジャズやラテンなど様々なジャンルに精通する。アウトリーチや総合芸術などの分野も取り組んでいる。大阪教育大学芸術専攻音楽コース（作曲）を卒業後、現在、愛知県立芸術大学大学院音楽研究科（博士前期）音楽専攻作曲領域で研鑽を積む。

はじめまして！　今回創造スタッフをさせていただくことになりました了徳寺佳祐です。変わった名前ですが名前負けしないよう頑張っていきたいと思います！　専門は作曲で、「人が輝く芸術」の創造を目指しています。状況のまったく違う人々が互いに歩み寄ることは素晴らしいことです。ですが、お母さんたまにはビール片手に歌いましょう、お父さんたまには漫画で笑いながらラジオを流しましょう。音楽は人を街を何倍にも何十倍にも輝かせます。これからよろしくお願いします。

Q．今年度の意気込みは？

石川貴憲（サクソフォン）

音楽とサックスを通じて、0歳からの子どもたちと安心できる場を共有したり、10代の子の好奇心をくすぐったり、同世代を奮い立たせたり。僕がより自由に、深くクラシック音楽に取り組むことで多くの世代に感動を届け、若いやつも面白い！と思ってもらえる活動を続けることを目標にしたいと思います。対象はその場で違っても全て「人」のため。楽しみながら精一杯頑張りたいと思います。26歳 山羊座 A型 石川貴憲

藤島えり子（演劇／俳優）

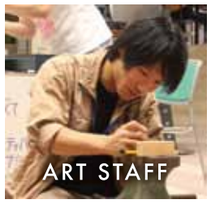
情報系創造スタッフとして文化の家と関わってきて、あれよあれよと４年目です。年々自身の、創造スタッフとしての活動の幅が広がっていることを感じていますが、肝心の専門である演劇の肩身が文化の家で狭くなりつつあり、非常に危機感を覚えています。何となく感じてしまう、演劇のハードルの高さ。そのハードルを少しでも下げられるよう、そして演劇をより楽しんでいただけるよう、試行錯誤しつつ色々と仕掛けていきたいと思っています！

豊永洵子（コンテンポラリーダンス）

2年目に突入しました。まだまだ序章です。が!! 自分のパフォーマンスへの探求もさることながら、沢山の人に届く「ダンス」企画をお届けできるよう、尽力したいと思います。応援よろしくお願い致します！

橋寛憲（造形）

今年度は夏におんぱくがあり、秋には恒例のながくてアートフェスティバルもあります。ワークショップや作品の事以外でも、多くの人といろいろお話しできる機会が増やせたらと思います。



小林大地（造形）

愛知芸大の金工指導員（金属加工工房の技術指導員）を務めていますが、芸術家としてよりも、技術面が必要とされる職業で、制作を依頼されることも多いです。今年度は依頼制作が非常に多かった分、来年度は、今まで以上に作家として自分らしく好き勝手な作品づくりに臨んでいきたいと思っています。

創造スタッフとは…？

高い芸術性、卓越した専門性に基づく豊富な知識や優れた技能、技術を活かし、文化の家職員やスタッフ、関係者などと連携を図りながら、文化の家の創造的事業の企画や実施、運営に携わります。

クーテシガーナの教えて、水谷さん！

長久手市のマスコットキャラクター、クーテシガーナが文化の家のアレコレをスタッフに質問するコーナー。今回は、施設予約のための抽選会についてのギモンを水谷さんに質問してみました。

水谷一義
（文化の家管理係）

Q 抽選会はだれでも参加できるの？

A 芸術文化活動を目的とした利用者のみです。ただ、芸術文化活動目的でも、部屋の属性に合わない利用目的（例：展示室で楽器の演奏の練習をする）の申込みは抽選対象となりません。

Q いつやっているの？

A 森のホール・風のホールは、利用月の1年前の第1水曜日、それ以外の光のホールや音楽室などのアートリビングは、利用月の6か月前の第2水曜日が原則です。例えば、4月の第1水曜日に翌年4月分の森のホール・風のホール、4月の第2水曜日に　10月分のアートリビングの抽選会を行います。いずれも、午前9時30分から10時までに会場で受付してください。午前10時から抽選会を行います。年始などは、抽選会の日時等が変わることもありますので、文化の家ホームページや広報ながくて等で確認してください。

Q どうやって抽選するの？

A 受付で渡した整理券の番号順に、くじで利用日時選択の順番を決めます。そのくじで決定した番号順に希望の施設・日時を予約します。1団体につき、1区分予約することができます。

Q お金はいつ支払うの？

A 受付で利用申請書を提出してください。その際に施設の利用料金を支払わない場合は、仮予約としますので、仮予約から1週間以内に施設の利用料金をお支払いください。

リレー連載 ハレとケのあわい vol.6

マリンバという楽器を知っていますか？

水野利香
（文化の家 事業係／マリンバ奏者）

マリンバという楽器を知っていますか？

そう！ 低音が出せる木琴です。ちなみに高音担当の木琴を、シロフォンといいます。ざっくり言うとマリンバは柔らかい音、シロフォンは硬い音がします。

そんなマリンバの音色、きっとどこかで一度は耳にしているのではないでしょうか。

例えばNHKの番組「きょうの料理」のテーマ曲に使われたり、iPhoneの着信音に使われたり。とても親しみやすい音だと思います。

マリンバの鍵盤は、主にホンジュラス産のローズウッドという堅い木で作られていて、とっても重いです。木を乾燥させて、圧縮して、さらに堅くするので、水に沈む！とか。（実験してみたことはないですが…）ローズウッドは、楽器として使えるほどに成長するまでに200年から400年かかる木ですから、今や貴重な木材として、ワシントン条約の取引制限下におかれています。

もともとは、大昔アフリカで地面に穴を掘って木の板を渡し、たたいて音を鳴らしていたものが、海を渡り、中南米で木の板の裏にひょうたんをつけて響かせるものに変わっていきました。

現在の形のマリンバになったのは、およそ100年前。ソロ楽器として活躍し始めるのは70年ほど前です。当然、バッハやベートーヴェンは、存在自体を知りません。ショパン、ブラームスも眼中にないですよね。古くからあるようで、実は新しい楽器なのです。だから、まだまだ開発の余地あり！で、世界中で15社程のメーカーがしのぎを削っているので、鍵盤の幅も形もバラバラ！いざ演奏しようと思うと、「お！手が届かない！」なんてこともあります…。

でも、演奏者たちにとって、一番気になるところは、ホールとの相性です。ホールの響きによって、全く違う音になってしまうからです。マレット（マリンバを弾くバチ）の素材や硬さで調整したり、楽器の位置を変えたり、一番よい演奏をお届けできるように試行錯誤しています。

その点、文化の家森のホールの響きは、マリンバにピッタリ!!（他の打楽器も！）世界中のアーティストたちが絶賛しています。なかには、CD販売用のレコーディングをわざわざ森のホールで行うアーティストも!!

本当？と思われる方は、是非、文化の家のマリンバコンサートにお越しください☆

名物！ながくて人 第6回

坂下 恵子 ＊ Keiko Sakashita

このコーナーでは長久手市在住のアーティストを紹介します！

第6回は、テキスタイルデザイナーの坂下惠子さんです。洋裁学校で先生をしていた祖母と服飾デザイナーの先生をしていた母の影響を受け、服飾デザイナーを目指し、「神戸ファッションコンテスト」入賞等経験後、テキスタイルデザイナーになりました。自然豊かな長久手に移り住んだことをきっかけに、テキスタイルの幅を広げるため、植物から抽出する草木染めや有松絞りを学び、2005年愛知万博の市民プロジェクト「あなたと共に紡ぎのコミュニケーション」では、参加国の植物で染め体験とファッションショーも開催。2006年から「惠工房」を設立し、市内各所で毎年秋に開催される「ながくてアートフェスティバル（NAF）」や、長久手市内の中学校等で、染めをとおして自然の色の美しさやものづくりの大切さを体験してもらっています。「最近は、市内で草木染めの材料になる藍などの植物を育てています。今年のNAFでは、参加会場の植物などで染めた糸や布などを使った作品づくりをしたいと思っています」とのこと。お楽しみに。

ながくてフォトアルバム

長久手市文化の家 情報誌
ハレとケ
ハレは非日常、ケは日常を意味し、アートリビングでの稽古の成果をホールで発表する、ケからハレへという文化の家のコンセプトを盛り込んだ情報誌にしたいという願いからつけられています。
第6号　2018年4月
発行：長久手市文化の家
印刷：株式会社 スタンパール社
デザイン：安藤蒼空
編集：小島祐未子（家鴨の編集舎）／岡田百合香、寺嶋佳奈（長久手市文化の家）

編集後記

今年度は、子ども向け公演の目立つラインナップとなりました。長久手市は、この少子高齢化が進む社会では珍しく、中学校が新設、小学校は続々増設中です。某検索サイトでは、昨年末ごろに「日本一若いまち」として特集記事が載っていました。つまり、子どもがたくさんいるまちなのです。まちに必要とされる会館であるために、まちが必要としている文化芸術を提供したい。そのためにも、常にまちの声に耳を傾け、まちに目を向けていたい…と、理想論を語るだけでなく、しっかりと行動に移したいと思います。20周年を迎える文化の家を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

（「ハレとケ」担当・岡田百合香）

フレンズ会員募集中！

～フレンズに入ってもっとお得に楽しもう！～

〈フレンズ会員とは?〉

文化の家ではオリジナル企画をはじめ、音楽・演劇・伝統芸能等、いろいろな自主事業を行っています。フレンズ会員になると、チケットの先行発売や割引等のさまざまな特典があります。

～フレンズ会員特典～

①文化の家自主事業公演チケットの割引
②文化の家自主事業公演チケットの先行発売
③機関紙、情報誌、事業案内などの刊行物郵送
④フレンズが行う文化事業、交流事業への参加

※記載された内容は変更になる場合があります。ご了承ください。

［会　　費］ 個人会員　年額1,500円（10月1日以降に入会の場合は1,000円）
家族会員　年額1,000円（機関紙・事業案内等の郵送はありません）
法人・グループ会員　年額15,000円（10月1日以降に入会の場合は10,000円）

［有効期限］ 入会日から最初に訪れる3月31日まで

［入会・更新方法］ 文化の家1F受付へお申し込みください。便利な郵便振替もございます。詳しくはお問い合わせください。

今後の主な公演のご案内 Pick Up

愛知室内オーケストラ わくわくクラシックコンサート	クラシックの名曲をちりばめ、オリジナルの演出でお送りする楽しいコンサートです。今年は「プレーメンの音楽隊」!	■5/5(土・祝)開演13:30（開場13:00）　森のホール 料　金：（前売・当日） 【大人】2,000円【子ども（3歳～中学生）】700円【親子ペア】2,500円 ※全席自由　※0歳から入場可、3歳未満で膝上鑑賞の場合要整理券　★発売中
自由演奏会inながくて2018	年齢、経験年数、演奏レベルなどの枠を超え、音楽が好きな方なら誰でも参加可能なコンサートです。	■5/27(日) リハーサル10：00～　コンサート14：30開演　森のホール 料　金：（観覧）無料（入退場自由）※全席自由 （演奏参加）【一般】1,500円【高校生】1,000円【中学生以下】無料 ※演奏参加希望者は、自由演奏会ホームページまたはメール（Jiyuu_nagakute@yahoo.co.jp）にて要申込み。
二兎社公演 『ザ・空気 ver.2 誰も書いてはならぬ』	国会記者会館を舞台に、記者たちの「忖度」を描く作品。安田成美を主演に迎え、実力ある俳優5人でお送りします。	■7/22(日)開演14:00（開場13:30）　森のホール 料　金：（前売・当日）【1階席】フレンズ会員3,500円（前売のみ）・一般4,000円 【2階席】フレンズ会員・一般2,500円 【学　生】1,500円 ※全席指定　※未就学児入場不可　★チケット発売日：フレンズ会員5/5（土）一般5/12（土）
愛知県立芸術大学 「長久手市長賞受賞記念コンサート ×ポピュラー・クラシック・コンサート（仮）」	愛知県立芸術大学の卒業生に送られる「長久手市長賞」の受賞記念コンサート。今年は、同大学の管弦楽団による親しみのある楽曲を通してオーケストラ音楽を楽しんでもらう「ポピュラー・クラシック・コンサート」と合同で開催し、市長賞受賞者をソリストに迎えます。	■9/15(土)　時間未定　森のホール 料　金：（前売・当日）【フレンズ会員・一般】1,000円【学生】500円 ※全席自由　※未就学児入場不可 ★7月発売予定
愛知県立芸術大学 「室内楽の楽しみ」	愛知県立芸術大学および同大学院の学内オーディションによって選抜されたグループによる演奏会。若手演奏家によるレベルの高いステージを気軽に楽しめます。	■9/23(日)　時間未定　風のホール 料金未定 ※全席自由　※未就学児入場不可　★7月発売予定

長久手市文化の家

〒480-1166 愛知県長久手市野田農201番地
お問合せ tel.0561-61-3411
〈HP〉http://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/ct_bunka_ie.html
〈スタッフ日誌〉http://bunkanoie.blog.fc2.com/　長久手市文化の家　@bunkanoie

交通アクセス

- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、「リニモ」はなみずき通駅下車、徒歩7分
- 地下鉄東山線藤が丘駅から車で5分
- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、名鉄バス愛知医科大学病院行きの一部（4番乗り場）または、菱野団地行きの一部（5番乗り場）、長久手文化の家北下車、徒歩4分
- 名鉄バスセンターから名鉄バス、トヨタ博物館前行き、長久手文化の家北下車、徒歩4分
- 東名高速道路名古屋インターから車で10分、名古屋瀬戸道路長久手インターから車で10分

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。